

細々と生き残る小さなカエル ニホンアカガエル

今年度は、ハルタたちの活躍もあってヒキガエルの話題が多かったが、猿江公園にはもう一種、忘れてはいけない**絶滅危惧種のカエル**がいる。それが**ニホンアカガエル**だ (Vol.21参照)。ヒキガエルよりもずっと小さい、体長5cmほどの可愛いカエルだ。繁殖個体数は明らかにヒキガエルよりも少なく、猿江公園の個体群は大きくない。いつ絶滅してもおかしくないと農工大のイワイ先生も言っていた。そもそも、住宅街に囲まれた猿江公園の環境を考えれば、ニホンアカガエルが生息していること自体が奇跡的だ。

猿江公園のニホンアカガエルの繁殖地である“上池”では、令和4年度に大規模な工事が行われた。工事の最中だった去年(令和5年2月)の繁殖シーズンは、心配だったが池の北側に無事に産卵してくれた。工事で新しく“カエルのために”作った石組みが産卵に適していたようで、石の隙間に多数の卵が見られた (Vol.72参照)。

ところが、今年は様子が違っていた。今年もまた同じところに産卵するのかと思っていたが、全く別の、池の南側に産んだのだ。数えてみると、2月18日に**24卵塊**が確認できた。アカガエルは1匹のメスが1つの卵塊を産むので、最低でも繁殖可能な成熟メスが24匹いたことが分かる。また、ふつう、オスの方がメスよりも多いので、**アカガエルの成体は50匹以上いることは確かだろう。**たくさんの卵塊を見れたことは嬉しいが、産卵場所が変わっているのが少し気になる。去年の産卵場は、今現在は柵ができて人が入れないようになっている。人が来ないようになったので、カモなどの水鳥が北側に増え、見ると糞だらけになっていた。カエルにとって鳥は天敵なので(カエルと鳥の関係は今ハルアキが執筆中らしいので、乞うご期待)、アカガエルたちはカモを避けたのだろうか。

ちょうど先日、猿江公園の生物保全に関する協議会に呼ばれたので、こういったアカガエルの動向を報告してきた。今回行われた工事の目的は「生物多様性を保全すること」なので、工事後のモニタリングは東京都が依頼した専門の生物調査会社が入って**7年間継続して行う**そうだ。うちの**生物班の生徒たちとも連携して調査**することが決まった。はたして、猿江公園のカエルたちの未来は今後どうなっていくのだろうか。生き物たちを守るために我々は何ができるだろうか。



ニホンアカガエルの成体



ニホンアカガエルのペア (上になっているのがオス) 2月19日

猿江恩賜公園ではヒキガエルよりも数が少なく、また、産卵は深夜に行われるようで、こうやってペアになっている様子を見るのもなかなか難しい。産卵の瞬間ははまだ見たことがない。



今年の産卵場所。浅場に24卵塊を発見。この写真では、見づらいが13個が写っている。



ニホンアカガエルの卵塊はボール状。ヒキガエルはヒモ状。2月22日



生物の授業でみんなでニホンアカガエルの卵を観察しに行った。2月28日



上の写真と同じペア。メスのお腹が大きく膨れているのがわかる。